

12月14日、町内の吉岡八幡神社で行われた「島田飴まつり」に行ってきました。
江戸時代から続く歴史あるお祭りで、良縁を願い、縁起物である「島田飴」を求める参拝者が多く訪れる、大和町の冬の風物詩です。

雪が降り積もる朝でしたが、キリッとした空気の中にどこか背筋の伸びるような清々しさを感じながら出かけました。

まず向かったのは、花嫁の髷（まげ）をかたどった飴細工「島田飴」の引換札販売所である大和町武道館です。

列に並んでいると、「縁」の文字を背にしたスタッフの方が誘導をしてくださったり、小さな「喜利飴（きりあめ）」の包みを配りながら声をかけてくださったりと、思いがけず温かな交流が生まれました。

関東から訪れた方も列に加わっており、初めて見る島田飴への期待がいっそう高まっています。

あちらこちらから聞こえてくる「良いご縁がありますように」の言葉と、やわらかな笑顔に包まれながら、私も無事に縁起物と対面することができました。

日頃ハローワークをご利用いただいている皆さまが、地域の企業との良いご縁で結ばれますように――そんな願いを込めて手を合わせました。

雪がみぞれから雨へと変わるころ、まつりのクライマックスである「花嫁道仲行列」が始まりました。

お囃子の笛の音と、巫女さんが振る鈴の音が、冬の冷たい空気の中に響き渡り、祝福の場でありながら、嫁ぎゆく前の切なさも含んだような音色に感じられました。

島田飴まつりは、長く受け継がれてきた伝統行事であると同時に、今も変わらず「ご縁を大切にしたい」という人々の想いが息づくまつりでもあります。

ハローワークもまた、地域の皆さまと企業との“ご縁”を結ぶ場であり続けたいと、あらためて心に刻んだ一日でした。

